

博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名 茂木 崇治
学位 博士 (医学)
学位記番号 新大院博 (医) 第 997 号
学位授与の日付 令和3年3月23日
学位授与の要件 学位規則第4条第1項該当
博士論文名 Depression, anxiety and primiparity are negatively associated with mother-infant bonding in Japanese mothers.
(日本人の母親において、抑うつ、不安、初産は、子へのボンディングに負の関連を示す)

論文審査委員 主査 教授 中村 和利
副査 教授 齋藤 玲子
副査 准教授 関根 正幸

博士論文の要旨

目的：

ボンディング障害とは、子どもへの愛情や情緒的な結びつきが不足している心理状態のことである。ボンディング障害を持つ親は、子どもに対する拒絶感や憎しみの感情を持つことがある。母と子のボンディング障害においては、産後うつ病が危険因子であり、また産後の不安や出産歴も潜在的な危険因子であることは広く知られている。

自己記入式質問紙調査のメタアナリシスでは、産後1か月時点でのうつ病の有病率は、日本人母親108,431人で14.3%であることが明らかになっており、産後うつ病の頻度の高さを示している。一方、産後不安の有病率はあまり研究されていない。

また、日本では、多くの研究で産後うつがボンディングと負の関係にあることが示されているが、産後不安がボンディングに及ぼす影響を評価した研究はほとんどない。

そこで申請者らは、抑うつ、不安、出産歴と、母と子のボンディングとの関連を検討することを目的とし、産後の母親を対象として横断研究を行った。

方法：

申請者らは、2017年3月より周産期メンタルヘルス研究を実施しており、新潟県の産科施設34施設から参加者を募集した。18歳以上の日本人産後女性を対象とし、重篤な身体合併症、重篤な妊娠合併症、または重度の精神疾患(重度の統合失調症や重度のうつ病など)を有する妊婦を除外した。母親2,379人(初産婦1,116人、経産婦1,263人)を対象に、産後1か月時点での母から子への愛着評価尺度(Mother-to-Infant Bonding Scale: MIBS)および不安と抑うつの評価尺度(Hospital Anxiety and Depression Scale: HADS)を自己記入式アンケート形式で施行した。

初産婦と経産婦の平均年齢、MIBSスコア、HADSの不安・抑うつスコアについてt検定を用いて比較した。また、ボンディングの潜在的な予測因子を同定するために、HADSの不安・抑うつスコア、出産歴、年

年齢を独立変数とし、MIBS スコアを従属変数とした単回帰分析を行った。尚、本研究は新潟大学倫理委員会および研究協力産科医療機関の倫理委員会の承認を得ており、参加者全員から書面によるインフォームドコンセントを得た。

結果：

初産婦は経産婦よりも有意に若かった（平均年齢±SD：31.0±4.96 vs. 33.0±4.34 歳；Table 1）。初産婦 1,116 人と経産婦 1,263 人を対象に、MIBS と HADS を用いて不安および抑うつとボンディングを評価した（Table 1）結果、MIBS スコア（2.89±2.68 vs. 1.60±2.11）は初産婦の方が経産婦よりも有意に高かった。HADS の不安（6.55±4.06 vs. 4.63±3.41）および抑うつ（6.56±3.43 vs. 5.98±3.20）スコアも、初産婦の方が有意に高かった。

単純回帰分析を用いて、HADS 不安スコア（ $r = 0.500$, $p < 0.001$ ）、HADS 抑うつスコア（ $r = 0.476$, $p < 0.001$ ）、および出産歴（ $r = -0.264$, $p < 0.001$ ）はボンディングの潜在的な予測因子として同定したが、年齢（ $r = 0.012$, $p = 0.595$ ）は同定しなかった。

ステップワイズ法を用いた段階的重回帰分析により、HADS の抑うつ・不安スコアと出産歴が MIBS スコアと有意に関連していることが明らかになった（Table 2）。

考察：

本研究では、初産婦 1,116 人は経産婦 1,263 人に比べて産後 1 か月の MIBS と HADS のスコアが有意に高かった。日本人女性を対象とした先行研究においても、産後 1 か月のエジンバラ産後うつ病質問票（Edinburgh Postnatal Depression Scale：EPDS）スコアおよび MIBS スコアで、初産婦が経産婦よりも有意に高かったとの報告もある。これらの所見を総合すると、日本人の初産婦は経産婦よりも産後の時期に母子間のボンディングが弱く、不安や抑うつの症状が悪化することが示唆される。その説明として考えられることとして、第一に、経産婦はこれまでの経験から自信を引き出す可能性が高いのに対し、初産婦にとって出産と育児は未知の出来事である。第二に、1 回目の出産の周産期にボンディング障害や抑うつ、不安を経験した女性は、2 回目の出産を望んでいない可能性がある。

申請者らの行った重回帰分析では、抑うつスコアがボンディングと最も有意な負の関連を示した。不安スコアと MIBS スコアの間に有意な関連が第 2 段階で示された。しかしこれらの結果は必ずしも既報の結果と一致しない。このような研究間の矛盾は、民族性、出産後の期間、評価尺度、統計解析の違いに起因している可能性があると考えられる。

結論：

産後の抑うつと不安の両方がボンディングに与える影響を評価することは重要である。申請者らの重回帰分析では、特にボンディング障害のリスクが高い初産婦において、抑うつと不安の両方の症状に注意を払う必要があることを示唆している。

審査結果の要旨

本研究は、抑うつ、不安、出産歴と、母と子のボンディングとの関連を検討することを目的とした。対象は新潟県の 34 の産科施設における 18 歳以上の日本人産後女性 2,379 人（初産婦 1,116 人、経産婦 1,263 人）で、横断調査を行った。産後 1 か月時点での母から子への愛着評価尺度（Mother-to-Infant Bonding Scale:MIBS）および不安と抑うつの評価尺度（Hospital Anxiety and Depression Scale:HADS）を自己記入式アンケート形式で施行した。ボンディングの潜在的な予測因子を同定するために、HADS の不安スコア、抑うつスコア、出産歴、年齢を独立変数とし、MIBS スコアを従属変数としたステップワイズ重回帰分析を行った。重回帰分析により、HADS の抑うつスコア、不安スコア、および出産歴が MIBS スコアと有意に関連していた。結論として、ボンディング障害のリスクが高い初産婦において、抑うつと不安の両方の症状に

注意を払う必要がある。妊婦のボンディング障害予防に寄与する成果をあげた点に博士論文としての価値を認める。